

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6061376号
(P6061376)

(45) 発行日 平成29年1月18日 (2017. 1. 18)

(24) 登録日 平成28年12月22日 (2016. 12. 22)

(51) Int. Cl.	F 1
B 6 5 D 33/00 (2006.01)	B 6 5 D 33/00 C
B 6 5 D 77/36 (2006.01)	B 6 5 D 77/36
B 3 1 B 70/74 (2017.01)	B 3 1 B 1/90 3 2 1

請求項の数 4 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2012-228323 (P2012-228323)	(73) 特許権者	591034512
(22) 出願日	平成24年10月15日 (2012. 10. 15)		石川株式会社
(65) 公開番号	特開2014-80202 (P2014-80202A)		兵庫県神戸市兵庫区島上町 1 丁目 2 番 1 〇 号
(43) 公開日	平成26年5月8日 (2014. 5. 8)	(74) 代理人	100094813
審査請求日	平成27年8月10日 (2015. 8. 10)		弁理士 庄子 幸男
		(72) 発明者	酒本 晴彦
			兵庫県神戸市兵庫区島上町 1 丁目 2 番 1 〇 号 石川株式会社内
		(72) 発明者	前島 孝敏
			兵庫県神戸市兵庫区島上町 1 丁目 2 番 1 〇 号 石川株式会社内
		審査官	植前 津子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 開封容易な袋の製造方法およびそれによって得られる開封容易な袋

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

平坦に折り潰した紙状筒の一方の開口端部にこれと平行な折り目を開口端から十分に離れた位置に付け、前記折り目まで開口端の両角を折り込み、その状態で形成した上紙及び下紙の一方を折り目に沿い展開して、両側及びそれらの中心部に三角折込み部及び開口部を有する展開面を形成し、該展開面の前記上紙及び下紙に、これらを前記開口部側に折り畳んで前記開口部を十分に塞ぎ、且つ折り目と平行な折れ筋を付けて、該折れ筋に沿い前記下紙を前記開口部側に折り畳んで両側の三角折込み部同士で貼り合わせ、且つ前記上紙の端辺を折れ筋と平行に所定幅を有して前記開口部側に折り畳んで折曲げ片を形成し、その状態の前記上紙を折れ筋に沿い前記開口部側に折り畳んで前記折曲げ片を不貼り状態で前記下紙上に貼り合わせて前記開口部を塞ぎ、上紙及び下紙上に、前記折曲げ片より外側に位置している開封テープ付の化粧紙を貼り合わせてなることを特徴とする開封容易な袋の製造方法。

【請求項 2】

前記折り目における開口端から十分に離れた位置は、紙状筒の一方の開口端から、平坦に折り潰した紙状筒の幅寸法Wに対して、最大で $1/3 W$ 以下である請求項 1 記載の開封容易な袋の製造方法。

【請求項 3】

前記折曲げ片の幅寸法wは、10ないし20mmの範囲内である請求項 1 または 2 記載の開封容易な袋の製造方法。

【請求項 4】

請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項記載の製造方法によって得られる開封容易な袋。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、米、麦、コンスターチ、デンプンなどの食品に由来する粉粒体、飼料、プラスチック樹脂、セメント、石灰、カーボンブラックなどの粉粒体を収納するための開封容易な袋の製造方法およびそれによって得られる開封容易な袋に関するものであり、より詳しくは、簡易な構造でありながら、内容物である粉粒体の漏れを完全に阻止するとともに、優れた強度有し、開封を容易且つ完全に行うことが出来る開封容易な袋の製造方法およびそれによって得られる開封容易な袋に関する。

10

【背景技術】

【0002】

従来の開封容易な袋として、図 11 に示すように、閉塞時に、上下の水平折込線折込部 50、51 の重接しない下側の水平折込線折込部 51 の上に位置するように開封テープ 52 付のアウトパッチ 53 を底部に貼り付けてなり、上下の水平折込線折込部 50、51 裏面に剥離容易なノリを塗布し、さらに、アウトパッチ 53 の裏面に長手方向両外側に固着接合用の帯状ノリ 54 を、その内側に剥離容易な帯状ノリ 55 を塗布することで、上記底部にアウトパッチ 53 を貼り付けてなるものが知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

20

【0003】

また、図 12 に示すように、平坦に折り潰した紙状筒 60 の一方の開口端 61 の両角に三角折込み部 62（63）を形成すると共に、その状態で紙状筒 60 の折り潰しにより形成した上紙 64 及び下紙 65 の一方を開いて展開面 66 を形成し、この展開面 66 の中心部開口 67 を覆うために上紙 64 及び下紙 65 に折れ筋 68 を付けて、展開面 66 の両三角折込み部 62、63 を渡り中心部開口 67 を覆うと共に折れ筋 68 を外方にはみ出し且つ引き剥がし片 69 付のインナーパッチ 70 を、展開面 66 に易剥離性接着剤 71 にて貼り合わせて開封側開口部 72 とし、上記折れ筋 68 に沿い上紙 64 及び下紙 65 を折り畳み貼り合わせ、その上に開封テープ付のアウトパッチを貼り付けてなる開封容易な袋が知られている（例えば、特許文献 2 参照）。

30

【0004】

また、図 13 に示すように、平坦に折り潰した紙状筒 60 の一方の開口端 61 の両角に三角折込み部 62、63 を形成すると共に、その状態で紙状筒 60 の折り潰しにより形成した上紙 64 及び下紙 65 の一方を第 1 折線 73 に沿い開いて展開面 66 を形成し、上紙 64 及び下紙 65 を第 1 折線 73 に平行な第 2 折線 74 に沿って内側に折り曲げ重ね貼り合わせて底部を形成し、その底部過程で、折り曲げ部同士を剥離容易に貼り合わせ、且つ展開面 66 の中央に、長辺が三角折込み部 62、63 を渡り短辺が第 2 折線 74 を越えるインナーパッチ 70 を、一方の第 2 折線 74 の外側に沿い線状に貼り合わせ、その上に開封テープ付のアウトパッチを貼り付けてなる開封容易な袋が知られている（例えば、特許文献 3 参照）。

40

【0005】

さらに、図 14 に示すように、平坦に折り潰した紙状筒 60 の一方の開口端 61 の両角に三角折込み部 62、63 を形成すると共に、その状態で紙状筒 60 の折り潰しにより形成した上紙 64 及び下紙 65 の一方を第 1 折線 73 に沿い開いて展開面 66 を形成し、上紙 64 及び下紙 65 を第 1 折線 73 に平行な第 2 折線 74 に沿って内側に折り曲げ重ね貼り合わせて底部を形成し、上紙 64 及び下紙 65 の内側に、それらの端縁から第 1 折線 73 を越える長さで上紙 64 及び下紙 65 に密に嵌合する閉鎖筒体 75 及び 76 を、それらの端縁と上紙 64 及び下紙 65 の端縁とを一致させて貼設してなる、バルブ付の開封容易な袋が知られている（例えば、特許文献 4 参照）。

【先行技術文献】

50

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】実公平1-26598号公報

【特許文献2】特開2004-307008号公報

【特許文献3】特開平9-142490号公報

【特許文献4】特開平7-52957号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

特許文献1の開封容易な袋は、アウターパッチ53を開封テープ52によって切断すると、アウターパッチ53と下の水平折込線折込部51及び斜め折込線折込部とは、剥離容易なノリにより糊付けされているので、一体となって切断されたアウターパッチ53と上の水平折込線折込部50は、下の水平折込線折込部51及び斜め折込線折込部から容易に剥離できる。さらに、下の水平折込線折込部51も斜め折込線折込部に剥離容易なノリにより糊付けされているので、斜め折込線折込部から容易に剥離でき、完全に開封することができる。しかしながら、この袋を完全に開封するには、まず開封テープ52によりアウターパッチ53を切断して、アウターパッチ53と上の水平折込線折込部50を剥離し、さらに下の水平折込線折込部51も剥離しないと、完全に開封することができないという、二段構えとなる不都合が生ずる虞がある。加えて、水平折込線折込部50及び51の折込幅が狭いと、密封性が低下し内容物が漏れる虞もある。

10

20

【0008】

特許文献2の開封容易な袋は、アウターパッチを開封テープにより切断し、上紙64及び下紙65を剥がしてインナーパッチ70を裸出し、さらに、インナーパッチ70を引き剥がし片69により剥がすことができる。しかしながら、この開封容易な袋を開封するには、上記したように、三段構えとなってしまいう不都合が生ずる虞がある。加えて、密封性を確保するために、別途インナーパッチ70を設ける必要がある。

【0009】

特許文献3の開封容易な袋は、アウターパッチを開封テープにより切断し、上紙64及び下紙65を裸出して、上紙64及び下紙65を剥がしてインナーパッチ70を裸出し、その状態で開封容易な袋をインナーパッチ70側を下方に向けると、内容物の重みにより、インナーパッチ70が強固に接着している一辺を除き他の辺が開くことで、インナーパッチ70を開封することができる。しかしながら、この開封容易な袋を開封するには、上記したように、二段構えとなってしまう、その上、最終的に開封するか、どうか、内容物の重みに依存しているという、不都合が生ずる虞がある。加えて、密封性を確保するために、別途インナーパッチ70を設ける必要がある。

30

【0010】

特許文献4の開封容易な袋は、アウターパッチを開封テープにより切断し、上紙64及び下紙65を裸出すれば、上紙64及び下紙65を剥がし、開封することができる。しかしながら、この開封容易な袋は、密封性を確保するために、別途閉鎖筒体75及び76を設ける必要があり、さらに、この閉鎖筒体75及び76を設けることは、袋製造の際に、製袋機械にセットするのが難しい。

40

【0011】

そこで、本発明の目的は、簡易な構造でありながら、粉粒体の漏れの完全な阻止や必要な強度に対し十分に満足した上で、開封を容易且つ完全に行うことが出来る開封容易な袋の製造方法およびそれによって得られる開封容易な袋を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0012】

本発明は、上記目的を達成するために提案されたものであって、下記の構成からなることを特徴とするものである。

すなわち、本発明によれば、平坦に折り潰した紙状筒の一方の開口端部にこれと平行な

50

折り目を開口端から十分に離れた位置に付け、前記折り目まで開口端の両角を折り込み、その状態で形成した上紙及び下紙の一方を折り目に沿い展開して、両側及びそれらの中心部に三角折込み部及び開口部を有する展開面を形成し、該展開面の前記上紙及び下紙に、これらを前記開口部側に折り畳んで前記開口部を十分に塞ぎ、且つ折り目と平行な折れ筋を付けて、該折れ筋に沿い前記下紙を前記開口部側に折り畳んで両側の三角折込み部同士で貼り合わせ、且つ前記上紙の端辺を折れ筋と平行に所定幅を有して前記開口部側に折り畳んで折曲げ片を形成し、その状態の前記上紙を折れ筋に沿い前記開口部側に折り畳んで前記折曲げ片を不貼り状態で前記下紙上に貼り合わせて前記開口部を塞ぎ、上紙及び下紙上に、前記折曲げ片より外側に位置している開封テープ付の化粧紙を貼り合わせてなることを特徴とする開封容易な袋の製造方法が提供される。

10

【0013】

また、本発明によれば、前記折り目における開口端から十分に離れた位置は、紙状筒の一方の開口端から、平坦に折り潰した紙状筒の幅寸法Wに対して、最大で $1/3W$ 以下、および/または前記折曲げ片の幅寸法wは、10ないし20mmの範囲内である開封容易な袋の製造方法が提供される。

【0014】

また、本発明によれば、前記製造方法によって得られる開封容易な袋が提供される。

【0015】

本発明によって得られる開封容易な袋の作用は次の通りである。

すなわち、展開面の中心部の開口部を、上紙及び下紙を折り畳むことで十分に塞ぎ、且つ、下紙を両側の三角折込み部同士で貼り合わせ、下紙上に上紙をその折曲げ片を不貼り状態で貼り合わせて、折曲げ片より外側に位置している開封テープにより化粧紙を開封し、折曲げ片を裸出して、不貼り状態の折曲げ片を手指でつかみ押し開いて、開口部を開放し内容物を取り出すことができる。

20

【0016】

また、折り目の位置が紙状筒の開口端から紙状筒の幅寸法Wの最大で $1/3W$ の位置にあると、上紙及び下紙を開口部側に折り畳んで開口部を十分に塞ぐことになり、内容物の漏れを阻止することができる。

【0017】

また、折曲げ片の幅寸法wが、10ないし20mmの範囲にあることにより、不貼り状態の折曲げ片を手指でつかみ得て上紙を押し開き、開口部を開放することができる。

30

【発明の効果】

【0018】

本発明の製造方法によって得られる開封容易な袋によれば、簡易な構造でありながら、内容物である粉粒体の漏れの完全な阻止や、必要な強度に対し十分に満足した上で、開封を容易且つ完全に行うことが出来る効果がある。

【0019】

また、本発明の開封容易な袋によれば、上記の効果に加えて、内容物である粉粒体の漏れの完全な阻止を確実にする効果がある。

【0020】

また、本発明の開封容易な袋によれば、上記の効果に加えて、開口部を確実に開放できる効果がある。

40

【図面の簡単な説明】

【0021】

【図1】実施例1に示した、本発明の実施の形態を示す開封容易な袋の製作状態を示す平面図である。

【図2】同じく上記袋の製作状態を示す平面図である。

【図3】同じく上記袋の製作状態を示す平面図である。

【図4】同じく上記袋の製作状態（下図）と従来例の製作状態（上図）との対比を示す平面図である。

50

【図 5】同じく上記袋の製作状態を示す平面図である。

【図 6】同じく上記袋の製作状態（下図）と従来例の製作状態（上図）との対比を示す平面図である。

【図 7】同じく上記袋の製作状態を示す平面図である。

【図 8】図 7 の VIII－VIII 線 に沿う断面図である。

【図 9】本発明の袋の利用状態を示す斜視図である。

【図 10】本発明の袋の利用状態を示す斜視図である。

【図 11】従来例を示す斜視図である。

【図 12】従来例を示す斜視図である。

【図 13】従来例を示す平面図である。

【図 14】従来例を示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0022】

以下に、図面を参照して本発明を実施するための形態を説明する。

【実施例 1】

【0023】

図面において、1 は開封容易な袋であり、この開封容易な袋 1 は、平坦に折り潰した紙状筒 2 の一方の開口端部 3 A にこれと平行な折り目 4 を開口端 3 a から十分に離れた位置に付け、折り目 4 まで開口端 3 a の両角 C 1、C 1 を折り込み、その状態で形成した上紙 2 a 及び下紙 2 b の一方を折り目 4 に沿い展開して、両側及びそれらの中心部に三角折込み部 5、6 及び開口部 7 を有する展開面 8 を形成し、この展開面 8 の上紙 2 a 及び下紙 2 b に、これらを開口部 7 側に折り畳んで開口部 7 を十分に塞ぎ且つ折り目 4 と平行な折れ筋 9 a、9 b を付けて、これらの折れ筋 9 b に沿い下紙 2 b を開口部 7 側に折り畳んで両側の三角折込み部 5、6 同士で貼り合わせる（図 3 参照）。

次に、上紙 2 a の端辺を折れ筋 9 a と平行に所定幅 w を有して開口部 7 側に折り畳んで折曲げ片 10 を形成し、その状態の上紙 2 a を、折れ筋 9 a に沿い開口部 7 側に折り畳んで折曲げ片 10 を貼らない状態で下紙 2 b 上に、貼り合わせて開口部 7 を塞ぎ、さらに、上紙 2 a 及び下紙 2 b 上に開封テープ 11 付の化粧紙 12（図 7 参照）を貼り合わせるものであり、開封テープ 11 は、上紙 2 a の折曲げ片 10 より外側に位置している。

【0024】

この紙状筒 2 は、径及び長さとも使用目的に合わせた任意のものが選択され、この実施例では 2 枚重ねにしたものが使用されているが、これに限定されず 3 層以上の多層でも良い。紙状筒 2 の材質はクラフト紙に限らず、脱気性を付与し且つ所定の強度を有したものであれば、特に限定がなく、樹脂シート、紙に樹脂シートを貼り付けたものなどが使用される。なお、化粧紙 12 などの材質も、上記紙状筒 2 と同様に適宜任意のものが選択される。

【0025】

上記構成になる開封容易な袋 1 は、以下のようにして作られる。

まず、2 層以上の紙状筒 2 について、その径及び長さとも使用目的に合わせた任意のものを選択する。そして、図 1 に示すように、選択した紙状筒 2 を折り潰し、その折り潰した紙状筒 2 の一方の開口端部 3 A 側、すなわち、内容物の取出口側に、この開口端 3 a と平行な折り目 4 を付けるが、この際、折り目 4 を開口端 3 a から十分に離れた位置 P に付ける。具体的には、この折り目 4 における開口端 3 a から十分に離れた位置 P は、紙状筒 2 の一方の開口端 3 a から、平坦に折り潰した紙状筒 2 の幅寸法 W の最大で $1/3 W$ 以下であるのがよい。理論的にみると、この位置 P は $1/2 W$ まで可能であるが、紙状筒 2 の素材使用量に対して、袋の容量が非常に少なくなり、経済的でなくなる。逆に、この位置 P が $1/5 W$ 以下になると、上紙 2 a 及び下紙 2 b を開口部 7 側に折り畳んでも、開口部 7 を十分に塞いだことにならず、内容物が漏れる虞が生じる。

【0026】

本発明の実施形態を示す図 4 の下図では、位置 P が $1/4 W$ であり、従来例を示す図 4

10

20

30

40

50

の上図（便宜上、実施例 1 と同じ符号を付す。）では、位置 P は $1/4 \cdot 6W$ であるが、開口部 7 を塞ぐ幅は、従来例では両側ともに a 寸法だけ短くなって、開口部 7 を十分に塞いだことになりづらくなり、内容物が漏れる虞が増すことになる。逆に、本発明の実施形態では、折り目 4 の位置 P が従来例の $1/4 \cdot 6W$ から $1/4 W$ に代わっただけで、従来例に比べて両側ともに a 寸法だけ長くなって、内容物が漏れる虞が大幅に減り、事実上内容物が漏れないことになる。

【0027】

そして、この紙状筒 2 の開口端 3 a の両角 C 1、C 1 を図 1 の二点鎖線で示すように、折り目 4 まで折り込む。同じく、この紙状筒 2 の他方の開口端部側、すなわち、底部側に、にも、この開口端と平行な折り目を所定幅で付け、他方の開口端の両角も、折り目まで

10

【0028】

次に、紙状筒 2 の両角 C 1、C 1 を図 1 の二点鎖線で示す折り目 4 まで折り込んだ状態で、紙状筒 2 の折り潰しにより形成した上紙 2 a 及び下紙 2 b のうち、下紙 2 b を折り目 4 に沿って展開し、図 2 に示すように、両側及びその中心部に三角折込み部 5、6 及び開口部 7 を有する展開面 8 を形成する。さらに、展開面 8 の上紙 2 a 及び下紙 2 b を開口部 7 側に折り畳んで、開口部 7 を十分に塞ぐことができる折れ筋 9 a、9 b を上紙 2 a 及び下紙 2 b に付ける。すなわち、開口部 7 を十分に塞げる折り目 4 の位置 P は、既述のとおり、紙状筒 2 の開口端 3 a からほぼ $1/4 W$ ないし $1/3 W$ の範囲であり、折り目 4 の位置 P が上記の範囲であると、上紙 2 a 及び下紙 2 b により開口部 7 を十分に塞ぐことができる。

20

【0029】

そして、本発明の実施形態を示す図 4 の下図の斜線で示す範囲における展開面 8 の上紙 2 a 及び下紙 2 b に、十分な接着強度を有しながら必要時に剥離できる、いわゆる剥離のりを塗布する。そのあと、図 3 に示すように、下紙 2 b を折れ筋 9 b に沿い折り畳んで両側の三角折込み部 5、6 同士で貼り付ける。さらに、上紙 2 a の端辺を折れ筋 9 a と平行に所定幅 w を有して開口部 7 側に折り畳んで、折曲げ片 10 を形成する。なお、この折曲げ片 10 には、図 4 の下図で示したように、剥離のりを塗布しない。この状態の上紙 2 a を折れ筋 9 b に沿い折り畳んで下紙 2 b 上に貼り付ける（図 5 参照）。また、この折曲げ片 10 は、その幅寸法 w が 10 ないし 20 mm の範囲内であり、この範囲内で適宜決定される。折曲げ片 10 が上記の範囲内の幅寸法 w であれば、不貼り状態の折曲げ片 10 を手指でつかみ得て、上紙 2 a を押し開き、開口部 7 を容易に開放し得ることになる。

30

【0030】

図 6 に示すように、斜線部分が剥離のりによる貼り付け部分であり、本発明の実施形態を示す図 4 の下図では、位置 P が $1/4 W$ であり、従来例を示す図 4 の上図では、位置 P は $1/4 \cdot 6W$ であるが、開口部 7 を塞ぐ幅は、本発明の実施形態では両側ともに a 寸法だけ長くなり、内容物が漏れる虞がなくなる。また、上紙 2 a の所定幅 w を有した折曲げ片 10 により、本発明の実施形態を示す図 6 の下図における b 寸法と、従来例を示す図 6 の上図における c 寸法とが、ほぼ同じ（b 寸法 c 寸法）となる。したがって、図 7、8 に示すように、上紙 2 a 及び下紙 2 b 上に開封テープ 11 付の化粧紙 12 を貼り合わせても、開封テープ 11 は、上紙 2 a の折曲げ片 10 より外側に位置することになる。

40

【0031】

このため、開封テープ 11 にて化粧紙 12 を切断すれば、上紙 2 a の折曲げ片 10 部分を裸出でき、折曲げ片 10 部分は貼り合わせされていないので、10 ないし 20 mm の範囲内の折曲げ片 10 部分を手指で容易につまむことができ、上紙 2 a の剥離のりで貼り合わせてある部分を剥がせば、開口部 7 を開放でき、内容物を取り出すことができる。なお、図 8 において、仮に、上紙 2 a に折曲げ片 10 部分がなく、2 点鎖線で示すように、折曲げ片 10 相当部分を延ばした状態で、下紙 2 b 上に上紙 2 a を貼り付けた場合、その上に開封テープ 11 付の化粧紙 12 を貼り合わせると、上紙 2 a 上に開封テープ 11 を貼り付けることになる。したがって、開封テープ 11 にて化粧紙 12 を開封しても、下紙 2 b

50

上に上紙 2 a を貼り付けた状態となって、上紙 2 a を手指でつまむことが出来ず、カッターなどで上紙 2 a 及び下紙 2 b を切除しなければ、開口部 7 を開放することができず、内容物を取り出すことができないことになる。

【0032】

そして、上述の紙状筒 2 の他方の開口端部側、すなわち、底部側も、開口端部 3 A 側、すなわち、内容物の取出口側とほぼ同じようにして閉じる。ただし、開封容易な袋 1 内に内容物を充填するためのバルブ 20 が取り付けられ、底部は開封する必要がないから、化粧紙 12 A には開封テープがなく、開口部も開放する必要がないから、貼り合わせには上記した剥離のりではなく、固着するための固着のりを使用する。

【0033】

10

上記構成になる本発明の開封容易な袋 1 は次のように使用される。

まず、開封容易な袋 1 内に紙状筒 2 の他方の開口端から、例えば、内容物投入口となるバルブ 20 が有れば、それに粉粒体などの供給源を接続して、エアーと共に粉粒体を開封容易な袋 1 内に送り粉粒体を充填する。充填が終了したらバルブ 20 を封止し、その他の必要作業を終了すれば、粉粒体充填済みの開封容易な袋 1 となり、流通に乗せることができる。

【0034】

そして、開封容易な袋 1 内に充填されている粉粒体を使用したい場合には、図 7 に示すように、開封テープ 11 の開封片 11 a あるいは切裂片 11 b を手指でつかんで、引っ張れば、化粧紙 12 を切断することが出来、上紙 2 a の折曲げ片 10 部分を裸出でき、折曲げ片 10 部分は貼り合わせされていないので、折曲げ片 10 部分を手指で容易につまむことができ、上紙 2 a の剥離のりで貼り合わせてある部分を剥がせば、開口部 7 を開放できて、内容物 21 を取り出すことができる。すなわち、開封容易な袋 1 を他の器具類を使用しないで、容易に開封出来て、粉粒体を取り出し使用することが出来る。

20

【0035】

以上、本発明の実施例 1 を説明したが、具体的な構成はこれに限定されず、本発明の要旨を逸脱しない範囲での変更は適宜可能であることは理解されるべきである。

【産業上の利用可能性】

【0036】

本発明の開封容易な袋は、簡易な構造であるのに、粉粒体の漏れの完全な阻止や必要な強度に対し十分に満足した上で、開封を容易且つ完全に行いたいような場合に、利用可能性が極めて高くなる。

30

【符号の説明】

【0037】

1	開封容易な袋
2、60	紙状筒
2 a、64	上紙
2 b、65	下紙
3 A	一方の開口端部
3 a、61	開口端
4	折り目
5、6、62、63	三角折込み部
7	開口部
8、66	展開面
9 a、9 b、68	折れ筋
10	折曲げ片
11、52	開封テープ
11 a	開封片
11 b	切裂片
12、12 A	化粧紙

40

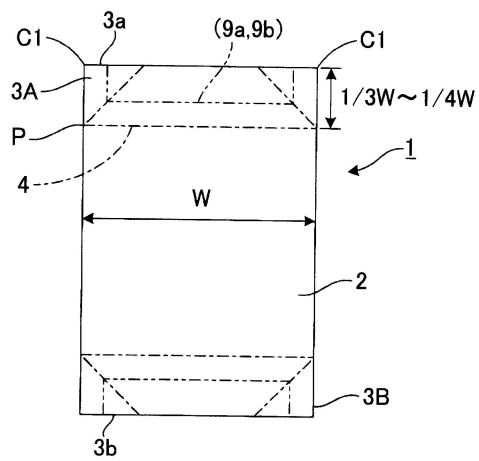
50

2 0	バルブ
2 1	内容物
5 0、5 1	水平折込線折込部
5 3	アウターパッチ
5 4	固着接合用の帯状ノリ
5 5	剥離容易な帯状ノリ
6 7	中心部開口
6 9	引き剥がし片
7 0	インナーパッチ
7 1	易剥離性接着剤
7 2	開封側開口部
7 3	第 1 折線
7 4	第 2 折線
7 5、7 6	閉鎖筒体
a、b、c	寸法
C 1	角
P	位置
W	紙状筒の幅寸法
w	所定幅

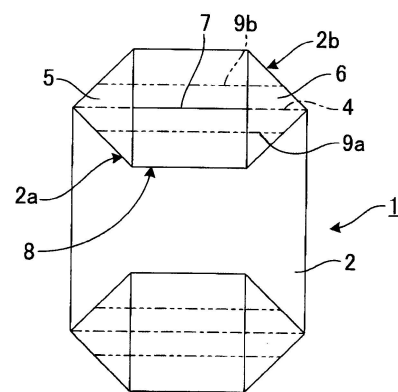
10

20

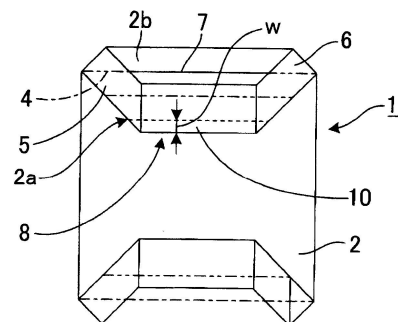
【図 1】



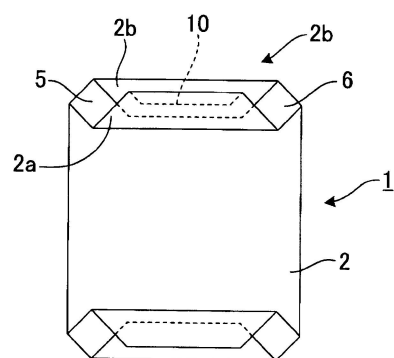
【図 2】



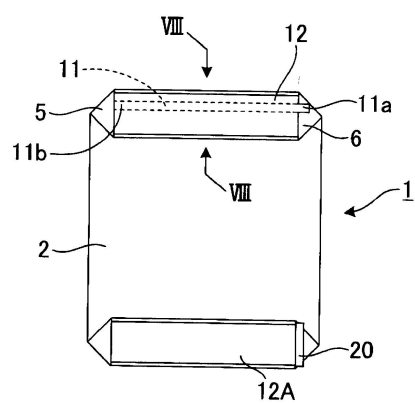
【図 3】



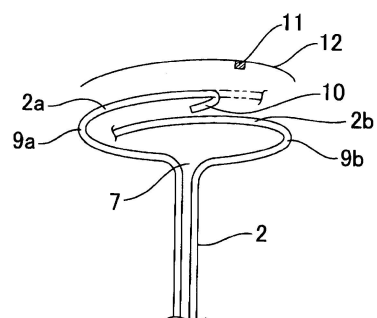
【図 5】



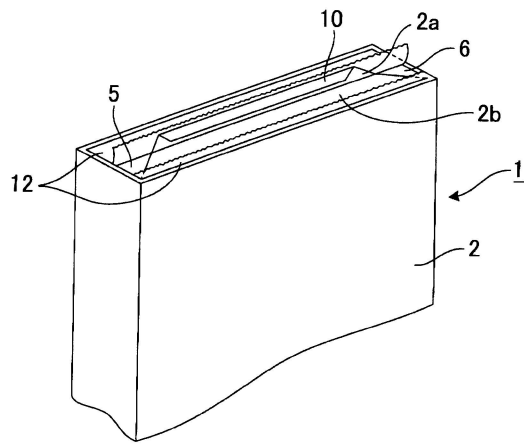
【图 7】



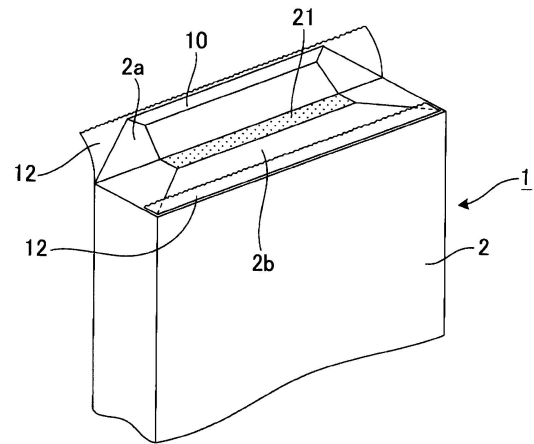
【图 8】



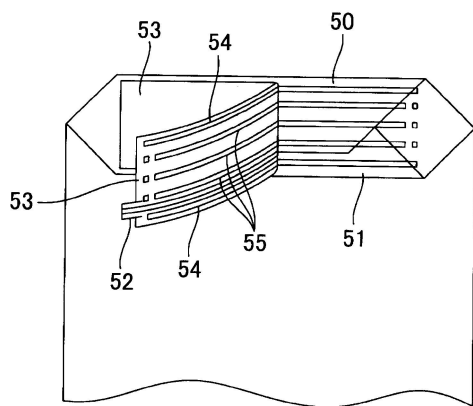
【図 9】



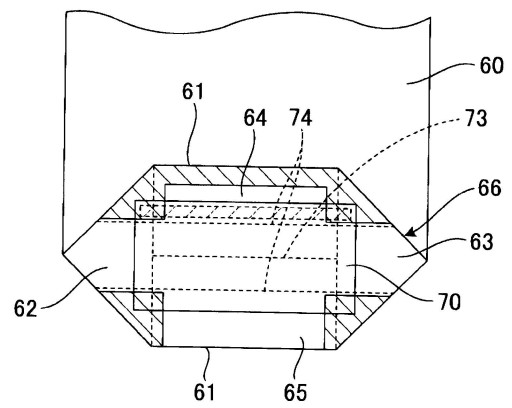
【図 10】



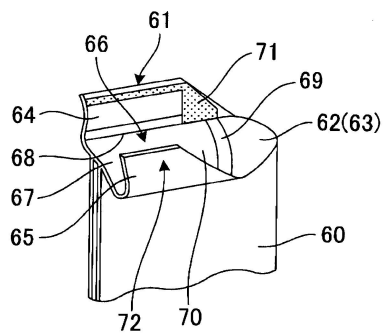
【図 11】



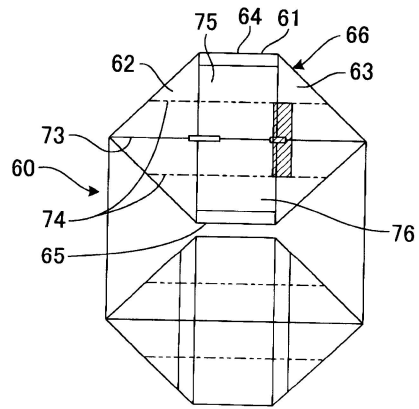
【図 13】



【図 12】



【図 14】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭58-188841 (JP, U)
実開昭60-139760 (JP, U)
仏国特許出願公開第2961184 (FR, A1)
実開昭63-126248 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 30/00-33/38
B31B 1/90
B31B 29/26
B65D 77/30-77/36